「我が校の教育」特色ある活動紹介
市内の小中学校 全30校を毎月紹介します

第13回

郡上市立 白鳥中学校
郡上市立 郡上東中学校

白鳥中学校

白鳥中学校は、開校52年目、新校舎になって4年目を迎えます。生徒たちは、旧校舎の床を磨き続けた先輩たちの心を受け継ぎ、新校舎でも毎日、床を磨いています。教育目標は、今年度から『共に創る』としました。

「一人一人の仲間を大切にする」「自分たちの手で創りあげようとする」精神を大切に、これから先10年後、更にその先に向けてよりよい学校を共に創っていこうとするものです。

『共に創りあげる』生徒会活動

生徒会活動では、「自分も仲間も大切にし、みんなの生活をよりよくする」ための自主的・創造的活動を創り出しています。1年間を次の4つのステージに分け、全校生徒で大切にする「心」をキーワードとして具体的な取組をしています。

①「安心・参加」宿泊研修
②「協力」体育祭
③「貢献」合唱祭
④「自立」入学説明会（1年生）心を受け継ぐ会（2年生）卒業式（3年生）

また、特色ある活動として、「あじみ委員会」があり、将来に生きて働く力（挨拶・時間・身だしなみ）を身に付ける活動を行っています。

「不撓不屈の郡上人」の育成を目指す中高一貫教育

本校は、郡上北高等学校との連携型中高一貫教育を始めて、5年目になります。「確かな学力」「共に生きる力」「自立する力」の育成を目指して、様々な連携活動を行っています。

「高校の先生による授業や夏休み学習会」「高校生による出前授業」「各種検定の合同実施」では、学力の向上と専門的な知識・技能の習得が図られています。

また、「体育祭や文化祭の参観」「部活動交流」「地域行事への参加」を通して、地域で共に生きるための力が身に付いてきています。

「先輩に学ぶ会」「高校の先生による進路講話」では、将来の進路実現に向けた学習をしています。

こうした取組を通して、「新しい未来に向かって、郡上を愛し、郡上を支える人づくり」を目指しています。

白鳥中教頭　川尻裕一

郡上東中学校

本校は、平成23年4月、西和良中と和良中の統合により、新しく開校された学校です。両校の良さを残しつつ、郡上東中としての新たな伝統を築こうと、生徒と教職員が一丸となり、学校づくりに取り組んでいます。

伝統文化を学ぶ　ふるさと学習

「♪郡上のナ 八幡出て行くときは～」「♪ア ソンレンセ」

お囃子にのせて、郡上踊りの軽快な地唄が校内に流れます。地域で活躍する講師の方に学ぶ「ふるさと学習」の時間です。

本校では、2・3年の総合的な学習の時間で「ふるさと学習」に取り組んでいます。地域に伝わる「郡上踊りのお囃子」「郡上陣屋太鼓」「神楽笛」「陶芸・茶道」を学び、郷土意識を高めたり、興味・関心を広げたりしています。特にそれらの伝統文化に携わる方から直接指導を受け、地域のイベントで学習成果を発表することにより、生徒は自信をもって活動をしています。

平成25・26年度と2年間にわたり「岐阜県ふるさと教育表彰」を受賞しました。「ふるさと学習」は本校の伝統として位置付けられつつある活動です。

環境を考える　森林学習

「郡上東中の校舎には、地元産材が多く使われています」

講師の方のお話に、生徒たちは、思わず床や天井を見回します。1年の総合的な学習の時間「郷土と森林」での一場面です。本校は、約1・9ヘクタールの学校林を有しています。そこでの間伐体験や調査活動等を地域の林業に携わる方を講師に招いて実施しています。活動を通して、木や森林、自然への関心を高め、自分たちの生活と環境について考える学習を進めています。

人権を考える　生徒会活動

「一　想いに応え、自分から動きます…」

生徒集会のたびに唱和する人権宣言は、初代生徒会が、全校生徒の願いを集約して制定したものです。毎年、生徒会がその精神を引き継ぎ、人権アンケートの実施や人権集会を行っています。全校や学級内の課題を見つめ、全員挙手で意見を交換し、解決するための手立てを話し合います。生徒自身が、自分たちの手で「いじめ0（ゼロ）の学校」を目指しています。

郡上東中教頭　岡田勝彦